

平成 26 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	人間開発学部
事 業 名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
平成 26 年度実務担当者名	成田 信子
事 業 の 概 要	
<p>【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？（いずれかにチェック）</p> <p><input type="checkbox"/>計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/>概ね計画通りであった <input type="checkbox"/>あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/>計画通りではなかった</p> <p>（以下、本年度の推進事業の概要について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）</p> <p>内容について</p> <p>「人づくりのプロ」を育成するという理念の下に、初等教育学科、健康体育学科、子ども支援学科の専門科目において授業実践の開発と振り返りを行い、課題を共有することをめざした。具体的には、各学科の特色を生かした授業開発を行った。</p> <p>子ども支援学科においては、遊び経験の充実と質の高い遊びを援助できる保育者養成に取り組み、学生に対するアンケート分析と「導入基礎演習」における幼児期の遊びの再体験をプログラムとして取り入れ、御殿場の野外宿泊演習「総合講座」においてもネイチャーゲームを体験に取り入れた。</p> <p>初等教育学科においては、教育実習前の 1, 2 年と教育実習後の 3, 4 年において身に付けておきたい知識・技能、しておきたい経験について記述式アンケートを行い、初等教育学科教員養成のプログラムと対照して考察した。</p> <p>健康体育学科においては、教育実習後の 4 年生に、体育授業場面、保健授業場面等で、大学での指導が十分だった点と不十分だった点を自由記述で書いてもらい、改善の方向を探った。</p> <p>いずれの学科も FD 研修として、学科での現状を分析的に捉えることができ、成果があった。計画書に書いたように課題も明らかになり、それぞれの学科が目指すディプロマポリシーに照らした人間力の発揮に向けて実践を積み重ねる素地ができた。</p> <p>目的について</p> <p>目的は、「人づくりのプロ」として学生を育成するという視点から、各学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づく授業実践の開発と振り返りを行い、人間開発学部全体の教育力を高める、と定めた。26 年度は学部創設 6 年目であったが、子ども支援学科を加えた 3 学科体制で、主に教員養成としての人づくりという観点から、それぞれの取り組みを全体で共有することができ、工夫点や問題点も挙げられ、学部教員の実践力の開発が進んだととらえられる。</p> <p>計画について</p> <p>計画の(1) 保育者養成カリキュラムの初年次として導入基礎演習の実践開発と振り返りを行う。振り返りは外部講師を招いた学部全体の FD 協議会として行い、「人づくりのプロを育てる」という観点</p>	

から初年次教育に何が必要かを討議する。: おおむねこの通りに進み、遊びを取り入れた初年次教育をおこなうことができた。

計画の(2) 教育実習の関連科目の授業実践の開発と振り返りを行う。授業開発の視点を明らかにし、①教職関連各科目の教育方法等の改善②科目間連携の内容と方法の開発を行う。実施効果の検討について、授業実践の記録(VTRからのプロトコルおこし等)の検討及び学生の意識調査(アンケート調査の分析等)によって明らかにする。: 授業開発の視点として、初等教育学科、健康体育学科のアンケート、自由記述調査の分析結果を得ることができた。ただし、科目間連携というところまではまだ到達していない。

さらに梶田叡一先生をお招きしてFD講演会を行い、本学部の課題をふまえた今後の大学教育と教員養成のありかたについて研修を深めることができた。

26年度の予算の執行については、全体で43、7%といただいた予算を有効に使えない部分があった。図書費と旅費について執行率が落ち込み、今後有効な図書資料の購入、先進校への視察、学会等への出張を計画的に行う必要がある。